

# GARMIN. PANOPTIX™ LIVESCOPE™ LVS12 インストールガイド

## 安全に関する警告と注意事項

### ⚠ 警告

製品に関する警告およびその他の重要な情報については、チャートプロッターの製品パッケージに同梱されている『安全および製品に関する警告と注意事項』ガイドを参照してください。

ユーザーは、船舶を安全かつ慎重に操縦する責任があります。ソナーは、水中の物体を探知するためのツールですが、航行中に船舶周辺の水を観察する責任を免除するものではありません。

### ⚠ 注意

これらの指示に従わずに、この機器の取り付けや保守を行った場合、損害や負傷の発生する可能性があります。

掘削、切断、または研磨を行っている間は、保護ゴーグル、防音保護具、および防塵マスクを忘れずに着用してください。

### 注記

ドリルで穴を開けたり、のこぎりで切断したりする場合は、表面の反対側に何があるか常に確認してください。

最高のパフォーマンスを実現しボートの破損を防ぐため、必ず次の手順に従って Garmin® デバイスを取り付けます。

取り付ける前に、インストールガイドをすべてお読みください。取り付け時に問題が発生した場合は、[support.garmin.com](http://support.garmin.com) を参照してください。

## デバイスの登録

今すぐオンライン登録を完了していただければ、お客様へのサポートはさらに容易になります。購入時のレシートの原本またはコピーは安全な場所に保管しておいてください。

- 1 [my.garmin.com/registration](http://my.garmin.com/registration) にアクセスします。
- 2 Garmin アカウントにサインインします。

## ソフトウェア更新

このデバイスを取り付ける場合は、ソフトウェアを更新する必要があります。

お使いの Garmin チャートプロッターに Wi-Fi® が搭載されている場合には、互換性のある Android™ または Apple® デバイス上から ActiveCaptain™ アプリを使い、ソフトウェアをアップデートする必要があります。お使いのチャートプロッターに Wi-Fi テクノロジーが搭載されていない場合には、メモリーカードと Windows® コンピュータを使用してソフトウェアをアップデートする必要があります。

詳細については、[support.garmin.com](http://support.garmin.com) を参照してください。

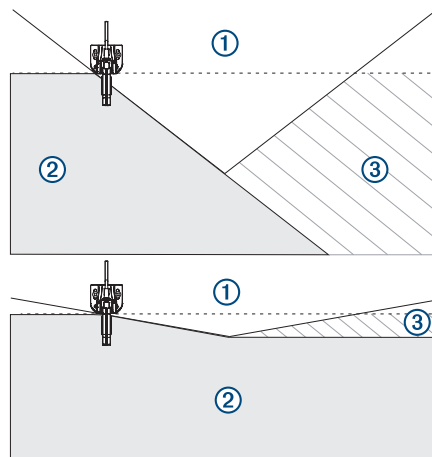
## 必要な工具

- ドリル
- 4 mm (  $5/32$  in. ) と 3.2 mm (  $1/8$  in. ) のドリルビット
- マスキングテープ
- #2 プラスドライバー
- 耐海水性のシーリング材
- 32 mm (  $1 1/4$  in. ) のホールソー ( オプション )
- ケーブルタイ ( オプション )

## 取り付けに関する注意事項

- 振動子はプロペラの進路上には取り付けないでください。

- 船外モーターでは、振動子はプロペラのダウンストロークの側面に取り付ける必要があります ( 一般的に右舷側 )。
- 振動子は起動、運搬、保管の際には、振動が加わらない場所に取り付ける必要があります。
- 振動子はストレーキ、ストラット、継ぎ目、取水および排水口、スルーホール振動子あるいは気泡を発生させるもの、水の乱流を発生させるもの後ろには取り付けないでください。水の乱流はソナービームに干渉する可能性があります。
- 振動子は可能な限り船の中心線の近くに取り付けてください。
- トランサム中心から離れた場所に取り付けると船底勾配が大きくなり、船体 ① とソナービーム ② が干渉して船の反対側 ③ と異なる検知になる可能性があります。振動子を後ろから見た状態を表示しています。



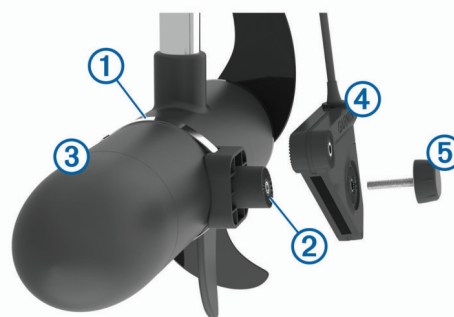
- 2 基掛けエンジンの船では、可能なら振動子はドライブの間に取り付けてください。
- 必要に応じて、ケーブルの長さを延長する場合は、オプションの延長ケーブルを接続できます。このケーブルは、[buy.garmin.com](http://buy.garmin.com) または Garmin 販売店で購入できます。

## 振動子をトローリングモーターに取り付ける

### 注記

取り付け後に、振動子ケーブルをシャフトまたは他の安全な場所へ固定する必要があります。振動子ケーブルのワイヤ、あるいはケーブル被覆の損傷は、振動子の故障の原因になります。

- 1 ホースクランプ ① をトローリングモーターマウントブラケット ② のスロットに通して、マウントの両サイドから同じ長さが出るまで差し込みます。



- 2 ホースクランプをトローリングモーター ③ にしっかり固定します。
- 3 振動子 ④ の上部を、ブラケットの上部と平行になるように合わせます。
- 4 ノブ ⑤ を使用して、振動子をブラケットに固定します。
- 5 ケーブルタイ ( 別売 ) を使用して、振動子ケーブルをシャフトまたは他の安全な場所に固定します。

6 注意しながら振動子ケーブルをチャートプロッターに配線します。

- ケーブルは電線や他の電氣的な干渉から離して配線してください。
- トローリングモーターを設置、収納する際は、ケーブルを挟まないように配線してください。

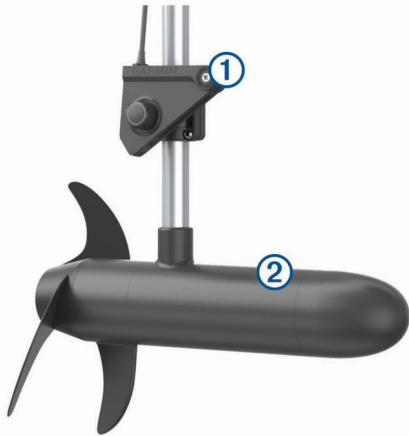
## 振動子をトローリングモーターシャフトに取り付ける

### トローリングモーターシャフトブラケットの方向

トローリングモーターブラケットは8度の角度をつけることができ、トローリングモーターによる振動子ビームへの干渉を抑えます。ブラケットを取り付ける時は、角度が狭い方の端を上にしてください。



振動子①の角度の付いた側をトローリングモーター②正面に向けます。



### 振動子をトローリングモーターシャフトに取り付ける

#### 注記

取り付け後に、振動子ケーブルをシャフトまたは他の安全な場所へ固定する必要があります。振動子ケーブルのワイヤ、あるいはケーブルの損傷は、振動子の故障の原因になります。

可能な限り振動子をモーターから離して設置してください。

- 1 トローリングモーターシャフトブラケットの向きを合わせます(トローリングモーターシャフトブラケットの方向, 2 ページ)。
- 2 M6 ねじ①を使用し、湾曲状のトローリングシャフトブラケット②を角度のついたトローリングシャフトブラケット③に取り付けます。

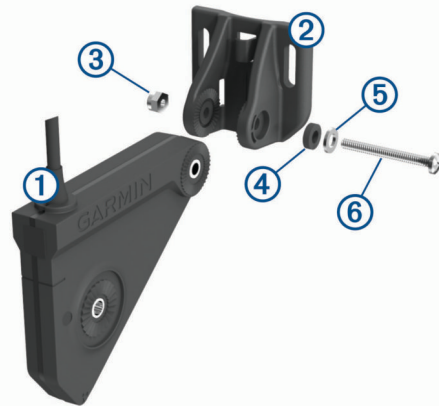


- 3 ノブ⑤を使用して、振動子④をブラケットに固定します。
- 4 ケーブルタイ(別売)を使用して、振動子ケーブルをシャフトまたは他の安全な場所に固定します。
- 5 注意しながら振動子ケーブルをチャートプロッターに配線します。
  - ケーブルは電線や他の電氣的な干渉から離して配線してください。
  - トローリングモーターを設置、収納する際は、ケーブルを挟まないように配線してください。

## 振動子をトランサムに取り付ける

### トランサム取り付け装置を組み立てる

振動子①を六角ナット③、ゴムワッシャー④、平ワッシャー⑤、およびボルト⑥を使用してトランサムマウントブラケット②に取り付けます。

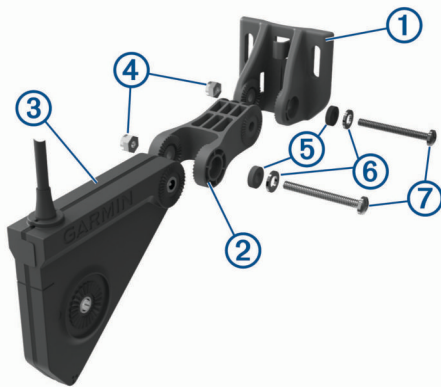


### エクステンション付きトランサム取り付け部品の組み立て

ディープVハルボートでは、エクステンションブラケットを追加することで、振動子を船体を超えて延長することができます。延長することで、ブラケットを沈めることなく振動子を喫水線以下に取り付けできます。また、ボートの縁の間際に振動子を設置することもできます。エクステンションブラケット無しでもすべての取り付けが可能です。



トランサムマウントブラケット①をエクステンション②に取り付け、エクステンションを六角ナット④、ゴムワッシャー⑤、平ワッシャー⑥、およびボルト⑦を使用して振動子③に取り付けます。

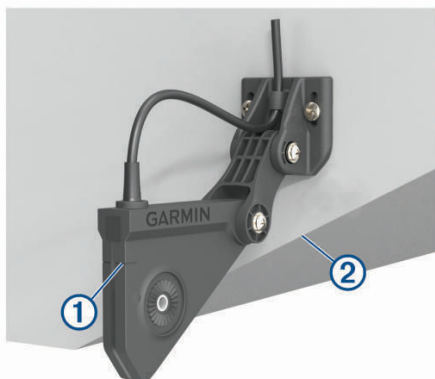


## トランスサム取り付け部品を取り付ける

### 注記

ねじでブラケットをグラスファイバーに取り付ける場合は、カウンターシンク形のドリルで、最上部のジェルコーティング層のみにカウンターボア(ナットの頭を収める空間)を開けることをお勧めします。このように処理することで、ねじを締めるときにジェルコーティング層のひび割れを防ぐことができます。

- 1 水面上で適切に方向が合うようにするには、振動子①のラインがトランスサム②の底面と一致するようにトランスサムマウントを配置します。



- 2 トランスサムマウントをテンプレートとして使用し、パイロット穴の位置に印を付けます。
- 3 パイロット穴を深く掘りすぎないように、4 mm (5/32 in.) ビットの先端から 19 mm (3/4 in.) のところにテープを巻きます。
- 4 ブラケットをグラスファイバーに取り付ける場合には、パイロット穴の上にテープを張り、ジェルコートひび割れを防ぎます。
- 5 4 mm (5/32 in.) のビットを使い、印を付けた場所にパイロット穴を約 19 mm (3/4 in.) の深さで掘ります。
- 6 付属の 20 mm ねじに耐海水性のシーリング材を塗布します。
- 7 3本の 20 mm ねじを使い、振動子マウントをトランスサムに取り付けます。
- 8 ケーブルをトランスサムマウントのワイヤーフックの下に通します。

- 9 ケーブルをトランスサムを通して配線しなければならない場合には、パイロット穴を喫水線から十分に上になる位置を選んで印を付けます。

- 10 ステップ 8 でパイロット穴の印を付けた場合には、32 mm (1 1/4 in.) のホールソーでトランスサムに通過穴を開けます。

- 11 振動子ケーブルをチャートプロッターに配線します：

- 通過穴を通してケーブルを配線する場合は、ステップ 9 で開けた穴に押し込んで通します。
- 通過穴を通さずにケーブルを配線する場合は、ケーブルを持ち上げ、トランスサムの上を通してください。

ケーブルは電線や他の電氣的な干渉から離して配線してください。

## コンパスを校正する

コンパスを校正する前に、磁気干渉を回避するために変換器をトロリングモーターから十分に離してシャフトに取り付け、水中に配置する必要があります。内部コンパスを有効にするには、校正の品質が十分である必要があります。

注：コンパスを使用するには、変換器をトランスサムまたはトロリングモーターシャフトに取り付ける必要があります。変換器をモーターに取り付けるとコンパスが機能しない場合があります。

注：最適な結果を得るには、SteadyCast™ヘディングセンサーのようなヘディングセンサーを使用してください。ヘディングセンサーは、ポートに対する振動子の方法を示しています。

船舶の回転を開始してから校正を行います。校正中に船舶を 1 周半完全に回転させる必要があります。

- 1 該当するソナー表示から、**MENU > 魚探設定 > インストール**の順に選択します。
- 2 必要に応じて、**AHRS 使用**を選択して、AHR センサーをオンにします。
- 3 **コンパスを校正する**を選択します。
- 4 画面に表示される手順に従います。

## メンテナンス

### 振動子のクリーニング

水中の汚れが溜まりやすく、デバイスのパフォーマンスが下がることがあります。

- 1 柔らかい布と低刺激性の洗浄液で汚れを取り除きます。
- 2 デバイスの湿気を拭き取ります。

## 仕様

### Panoptix LiveScope LVS12 の仕様

寸法 (長さ×高さ×幅)	113 x 92 x 23 mm ( 4.45 x 3.6 x 0.91 in. )
重量 ( 振動子のみ )	500 g ( 1.1 lbs. )
周波数	530 ~ 1.1 MHz
動作温度	0° ~ 40°C ( 32° ~ 104°F )

保管温度	-40° ~ 85°C ( -40° ~ 185°F )
最大深度 / 距離*	61 m ( 200 ft. )
視野	前後 : それぞれ 30 度の範囲 左右 : 20 度

\*塩分濃度、底質、その他の水の条件によって変わります。

### オープンソースソフトウェアライセンス

この製品に使用されているオープンソースソフトウェアライセンスを表示するには、[developer.garmin.com/open-source/linux/](https://developer.garmin.com/open-source/linux/)にアクセスします。

© 2018 Garmin Ltd. or its subsidiaries

Garmin®、および Garmin ロゴは、Garmin Ltd.とその子会社の米国およびその他の国における登録商標です。ActiveCaptain™、LiveScope™、および Panoptix™ は、Garmin Ltd.とその子会社の商標です。SteadyCast™ これらの商標を、Garmin 社の明示的な許可なしに使用することはできません。

Android™は、Google, Inc.の商標です。Apple®は、米国およびその他の国で登録された Apple Inc.の商標です。Wi-Fi®は Wi-Fi Alliance Corporation の登録商標です。Windows®は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。その他の商標および商標名はそれぞれの所有者の所有物です。

